

令和7年度 大阪市立茨田北中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

校内秩序を正しく維持することができており、ほとんどの生徒がまじめに学校生活を送っている。
平均正答率において、国語・数学とも全国平均を下回っている。
平均無回答率において、全国と比較して、国語は上回っているが、数学は下回っている。問題に取り組む姿勢に課題がみられる。
一部の生徒において、学習意欲に課題があり、基礎学力の定着が不十分である。そのため、学習の定着度に関して、二極化の傾向が見られる。
家庭での学習については、宿題においてしっかりできてきている生徒が増えてきているが、未提出の生徒も若干あり、学校でのフォローと家庭へのさらなる啓発が必要である。
(国語) 全国と比較して、「言葉の特徴」の領域において高い値を示している。
(数学) 全国と比較して、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の領域において低い値を示している。
(理科) 全国と比較して、平均IRTスコアは16pt下回っている。
生徒質問紙において、「学校に行くのは楽しいか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対する肯定的な回答の割合が、全国よりも上回っている。ただ、「将来の夢や希望を持っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、全国より下回っている。自尊感情が全国と比較して、若干低い傾向にある。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

平均点は大阪府と比較して、5教科とも下回っている。経年比較において、国語は横ばい、数学は低下した。
(国語)「文章の構成や展開、表現について考えること」「目的や意図に応じて伝えたいことについて、根拠を明確にして書くこと」は良好である。「文脈に合わせて適切に書くこと」に課題がある。
(社会) 歴史上の人物についての理解は良好である。「資料に示された情報をもとに考察し、説明をすること」「高度経済成長期に起こった出来事の推移を考察すること」に課題がある。
(数学)「箱ひげ図から範囲と四分位範囲を読み取ること」「問題場面における考察の対象を明確に捉えること」は良好である。「『2つの角の関係を文字で表す』表を読み取り、式で表す」など、文字を用いた式で角の大きさの関係や数量を表すこと」「すじ道を立てて考え証明すること」に課題がある。
(理科) 骨と筋肉のはたらきについての理解は良好である。「ヒトが意識して起こす反応における、刺激を受け取ってから反応するまでの時間について考えること」に課題がある。
(英語) 語や文法事項等を理解して、正しい文を書くこと」「日常的話題について、まとまりのある会話文とグラフを読み、話の概要を捉えて、内容の要点を適切に把握すること」は良好である。「文法や語彙の知識を活用し、場面に応じた英文を書くこと」「社会的な話題についてのスピーチ原稿を読み、話の概要を捉えて、内容の要点を適切に把握すること」に課題がある。

○大阪市英語力調査(GTEC)

「読むこと」では、簡単な文章の大まかな流れを理解する力はある程度ついてきている。具体的に情報のつながりを読み取る力をつけていく。
「聞くこと」では、なじみのある表現において必要な情報を聞き取る力はある程度ついてきている。鄭文を聞いて「意味のまとまり」ことに区切り、状況をイメージして全体の意味を捉える力をつけていく。
「書くこと」では、基本的な英文をつなげて短い文章を書く力はある程度ついてきている。文と文の意味のつながりを意識して、ある程度長い文章を書く力をつけていく。
「話すこと」では、基本的な語や言い回しを使って、日常のやり取りにおいて単純に応答する力はある程度ついてきている。より聞き手を意識しながら話す内容を増やし、複数の文で自分の考えを伝える力をつけていく。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

「運動(体を動かす遊び)やスポーツをすることが好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合は55.6%であった。また、1週間の総運動時間60分未満の生徒の割合は17.3%であった。
(成果) 全国と比較して、男女ともに「長座体前屈」「ハンドボール投げ」において、高い値を示している。
(課題) 全国と比較して、男女ともに「握力」は、低い値を示している。

○中学生チャレンジテスト(1年 国・数・英)・大阪市チャレンジテストplus(社・理)

(国語)「語順や修飾と被修飾の関係について理解すること」「文章の内容をとらえ、筆者の考え方を理解すること」は良好である。「資料を用いて自分の考えがわかりやすく表現を工夫すること」「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容の理解に役立てること」に課題がある。
(社会)「経済格差についての考察」「摂関政治について、資料を基に考察し表現すること」は良好である。「面積を正しく表した地図の特徴について理解すること」「日本と東アジアの関わりについての理解を基に、複数の資料を読み取ること」に課題がある。
(数学)「負の数の計算の理解」「垂線の基本的な作図の仕方」は良好である。「数量やその関係についての変化を捉え、文字を用いた式で表し、数学的な表現を用いて説明すること」「グラフから情報を読み取り、その意味を理解し説明すること」に課題がある。
(理科)「示された資料に書いてある情報を基に、生物の特徴で分類すること」「葉脈や根の特徴から、ホウレンソウがアブラナと同じ仲間であることを説明すること」は良好である。「てこがつかっているときに片方にはたらく力と物体と質量を求めること」「水溶液からより多くのマウパンの結晶を得る方法を説明すること」に課題がある。
(英語)「短いやり取りを聞いて話し手の意向を正確に理解すること」「日常的話題についてのやり取りや紹介文を聞いたり読んだりして話の概要を捉え、要点を適切に把握すること」は良好である。「指示された要件を踏まえ、文法や語彙の知識を活用し、英文を書くこと」「日常的話題についてのやり取りを読み取り、話の概要を捉え、要点を適切に把握すること」に課題がある。

○中学生チャレンジテスト(2年)

(国語)「文脈の中における語句の意味を的確にとらえること」「案内文とポスターに必要な項目を理解して書くこと」は良好である。「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容の理解に役立てること」「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと」に課題がある。
(社会)「第1～3次産業の分類について理解すること」「化政文化が栄えた時期の浮世絵について理解すること」は良好である。「地域ブランドについて理解すること」「江戸幕府による領国に関する出来事の推移を考察すること」に課題がある。
(数学)「多角形の内角・外角の意味と三角形の合同条件を理解していること」「具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式に表すこと」は良好である。「事柄が成り立つ理由を文字を用いて説明すること」に課題がある。
(理科)「酸素と金属の性質について理解すること」「心臓が全身の血液量を送り出すまでにかかる時間について考えること」は良好である。「発熱反応について理解すること」「仮説を立てて行った実験の結果がどのようになるかを考えること」に課題がある。
(英語)「短いやり取りを聞いて話し手の意向を正確に理解すること」「語や文法事項等を理解して、正しい文を書くこと」は良好である。「日常的話題についてのスピーチ原稿を読み、話の概要を捉え要点を適切に把握すること」「会話文を読み、やり取り場面を理解したうえで、文法や語彙の知識を活用して流れに合う英文を書くこと」に課題がある。

【今後に向けて】

学習規律を確保しつつ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。特に、各教科の知識や技能、見方、考え方を今まで以上に働かせながら学習することで、それらを使って自分の考えを整理したり、組み立てたりして、自分の考えを表現できる力をつけていく。
TT、習熟度別授業、少人数授業をより積極的に取り組み、補充学習などの個に応じたきめ細やかな指導に心がけ、基礎・基本的な学習内容の定着を徹底する。
ICT機器を有効に活用した指導方法の充実に努める。
生徒会、生徒専門委員会活動を通して、生徒自ら進んで、学校生活の改善に取り組める環境の充実に努める。
授業、学校行事など、学校教育活動全体を通して、普段からお互いを認め合い協力しあえる集団作りを努める。
「道徳」「特別活動」を充実させ、「自己肯定感」「自己有用感」を高めるとともに、集団や社会の一員として果たす役割を考えさせる。
教員の授業力の向上を目的とした研究授業の充実を図る。